

# 令和6年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

## 提出資料

	頁
○令和5年度マネジメントシート	
1 こころの医療センター院長	2
2 一志病院院長	4
3 病院事業庁長	6
[参考]	
○令和6年度マネジメントシート	
1 こころの医療センター院長	8
2 一志病院院長	10
3 病院事業庁長	12

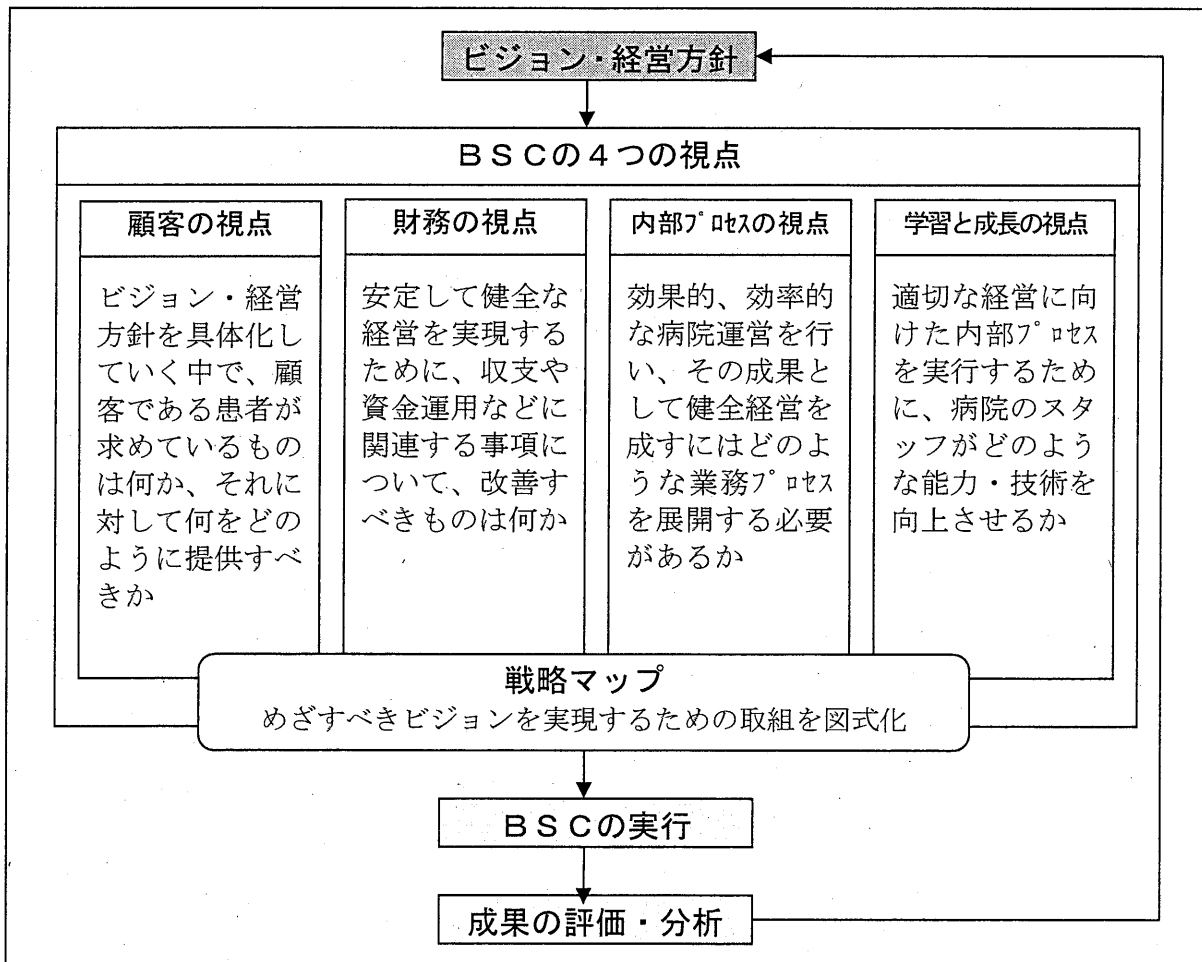
令和6年10月2日  
病院事業庁

## 病院事業庁長及び各病院長のマネジメントシートについて

病院事業庁では、平成 14 年度から病院運営を行うにあたって、戦略を具体化し、実行するためのマネジメントシステムである「バランス・スコアカード (BSC)」を導入し、病院事業庁長及び病院長が 1 年間の運営方針と主な取組を 1 枚のシート (マネジメントシート) にまとめて進捗管理を行っています。

### 《マネジメントシートの構成》

- ・「ビジョン」を掲げるとともに、そのビジョンを達成するための「経営方針」を策定しています。
- ・ビジョンを達成するための戦略目標や業績評価指標を、BSCの考え方にに基づき、4つの視点で分類しています。



令和5年度 こころの医療センター院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター					
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療のサービスを提供します。					
経営方針	・精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、健全な病院運営を進めます。 ・政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県の精神科医療をリードします。					
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R4 実績値	R5 目標値
顧客の 視点		◎重点取組事項	満足度の高い医療の提供	患者満足度	86.9%	94.3%
		早期社会復帰の推進	新患者の寛解率の向上	新患者の寛解率	60.8%	60.0%
			精神科救急・急性期医療の推進	精神科救急患者受入件数	117件	180件
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	地域生活支援体制の充実	デイケア・ショートケア延べ患者数	10,125人	12,500人
			地域医療機関との連携	訪問看護延べ患者数	4,317人	5,000人
		精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組	精神科早期介入対応件数	192件	200件	
こころしつとこセミナー開催件数	40件	35件				
財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立	臨床・経営指標の追及・充実	充実	充実
		医業収支改善	医業収支比率	54.8%	65.2%	
			経常収支比率	113.9%	99.4%	
		医療体制の構築	アルコール依存症入院患者数	15.8人/日	30人/日	
			認知症入院患者数	29.2人/日	40人/日	
		精神科倫理に則った病院運営	1日平均入院患者数	187.1人/日	230人/日	
			1日平均外来患者数	187.1人/日	200人/日	
		内部プロセスの 視点		◎重点取組事項	経営改善の方向性決定	病棟再編の具体案の検討・実施
医療体制の構築	常時急性期患者受入体制の確立			措置鑑定対応件数	78件	50件
	医師の充足			医師充足率	78.4%	100.0%
精神科倫理に則った病院運営	看護師の充足			看護師充足率	100.0%	100.0%
	災害時医療体制の確立に向けた取組	BCPに基づく図上演習・訓練	開催	開催		
学習と 成長の 視点		◎重点取組事項	コンプライアンスの徹底	倫理委員会(研修)開催数	2回	2回
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加	人材育成のための研修開催数	6回	6回
			三重県の精神科をリードする取組	研修医・看護実習生等受入延べ人数	1,968人	2,200人
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	71.5%	-

R5 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
86.0%	・労働生産性向上タスクフォースによる改善の取組	労働生産性向上タスクフォースでの取組を行ってきたが目標に達せず、昨年度より0.9ポイント低下した。	ホームページの見やすさ、分かりやすさの向上などに取り組むことで、患者満足度の向上につなげていく。
68.2%	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進	寛解率の向上に向け、入院中に付加価値のある支援を行い、目標を達成できた。	引き続き、急性期医療の充実を図りながら寛解率の向上を図っていく。
196件	・精神科救急受入体制の確保	積極的に受入れを行った結果、コロナ前の令和元年度実績(186件)を上回る件数を受け入れ、目標を達成できた。	引き続き、三重県精神科救急医療システムの支援病院として受入体制を維持していく。
9,483人	・プログラムの再編により集客を図る取組	新型コロナの影響により、長期間休む利用者がいたために人数は減ったが、若者向けのプログラムを開始し若者の居場所づくりに取り組むなど、プログラムを充実したことで、半日ではなく一日単位の利用者が増え、収入は増加した。	ニーズに応えられるようなプログラムを充実させるとともに、関係機関や当事者に取組が伝わるよう、情報発信が必要である。
3,803人	・利用者の地域生活を支援していくための質の確保	新型コロナ、インフルエンザの影響に加え、新型コロナ特例による電話相談が廃止となったために患者数が前年度を下回った。	病院とのつながりを維持しつつ、利用者の地域生活を支援していくための質の確保に取り組む。
97.7%	・地域の関係施設との連携及び日中活動支援等の充実	基準となる令和5年6月の入院患者43名のうち、令和6年3月末で42名が退院し、目標を達成できた。	患者が地域で安心して生活できるよう、引き続き、多職種による支援や地域の福祉施設等との連携を進めていく。
9件	・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催	研修会開催などの取組を予定どおり実施し、目標を達成できた。	引き続き、地域の医療機関や福祉施設等の事業所との連携を深めていく。
288件	・地域医療機関への訪問 ・入院患者数増加タスクフォースによる改善の取組	総合病院への訪問を行い、アルコール依存症患者の紹介の依頼を行った。	今後も病病連携に取り組み、紹介患者を受け入れていく。
223件	・早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実、ケースマネジメント体制の確立	保護者等からの相談件数が増加しており、目標を達成できた。	早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実を図り、引き続き、関係機関との連携を図りながら、早期介入に必要なとされるニーズの把握に努める。
35件	・精神科医療取組の広報・啓発等	多くのセミナーの講師を務めていた職員が退職したものの、次世代の職員の育成を行い、目標を達成できた。	今後も講師を務めることができる職員の育成を図る。
充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析	経営会議や院内供覧により、自院や他病院の医療の質などの各種指標を比較して自院の状況の評価することで、職員の意識を高めた。	引き続き、臨床・経営指標を充実し、エビデンスに基づいた病院運営を進めていく。
57.5%		医療収支比率について、目標を達成できなかったが、令和4年度と比べて2.7ポイント改善した。経常収支比率は新型コロナにかかる補助金の減少により前年度より低下し、目標を達成できなかった。	
97.1%		新型コロナからの回復が十分でなかった影響等により、目標は達成できなかったが、地域連携による医療機関の訪問や12月からアルコール病棟の開放病棟化により、入院患者数は前年度より増加した。	引き続き、経営改善プロジェクトの取組を推進していく。
21.7人/日	・精神科専門治療の充実 ・精神科特定入院料の算定 ・収支改善に向けた病院機能の検討 ・病棟機能の明確化と病棟間の連携 ・飲酒運転違反者に対する診察 ・認知症相談、啓発研修の実施 ・他医療機関、施設との連携 ・依存症患者の治療	新型コロナからの回復が十分でなかった影響等により、目標は達成できなかったが、地域連携の取組や医療機関、福祉施設等への働きかけにより、患者数は前年度より増加した。	病病連携を強化し、患者の受入れの強化を図る。
32.5人/日		入院患者数は回復しつつあるが、新型コロナ前の水準には戻っていない。	
203.7人/日		通院間隔の長期化及び医師の異動等により、目標を達成できなかった。	
180.8人/日			
検討・実施	・東1病棟改修工事の実施、病棟機能の院内会議での検討	病棟改修工事は令和6年1月に完了し、2月から入院患者の受入れを開始した。	病棟の今後の在り方について、院内会議での検討を継続する。
100件	・県健康推進課・保健所等との連携、院内救急体制整備	積極的に受け入れる体制を維持することで、目標を達成できた。	院内の受入体制を常に維持するとともに、保健所等と連携し、積極的な受入れを図る。
79.2%	・研修や資格取得へのバックアップ体制を強化し医師に魅力ある病院づくりの取組	令和4年度の医師の退職により充足率が低下しているため、積極的に専攻医の受入れを行うとともに、他病院の医師から外来診療及び宿直の応援を受けた。	研修や資格取得へのバックアップ体制を強化するなど、医師に魅力ある病院づくりを進める。
98.9%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力ある病院づくりへの取組	年度途中の看護師の退職により、充足率が100%を下回った。	勤務環境の整備など魅力ある病院づくりを進める。
開催	・震災、感染症及びサイバー攻撃に係るBCPマニュアルの実効性を高める取組	11月1日に「南海トラフ巨大地震発生対応シミュレーション」を実施した。また、12月5日にサイバー攻撃への対応訓練を実施した。	今後も実効性のあるBCPマニュアルとなるよう、訓練を行っていく。
99.7%	・医療安全研修の複数回実施、未受講者への受講勧奨	医療安全研修を2回、感染対策研修を2回実施した。声掛け等により目標を達成できた。	未受講者への声掛けを継続していく。
2回	・職員の精神科医療における倫理意識向上のための研修の実施	新たに対応が必要となる虐待防止対策にかかる研修を2回実施した。	引き続き、ニーズに応じた研修を実施し、職員の倫理意識の向上を図る。
5回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施 ・医療の質向上タスクフォースによる改善の取組	トピック研修3回、ブラッシュアップ研修1回、しつこ実践報告会1回を実施したが、能登半島地震への対応のため、6回目の研修を開催できなかったことから、目標は達成できなかった。	引き続き、ニーズに応じた研修を実施し、職員のスキルアップを図る。
2,168人	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実	看護学生の実習期間が短縮されたことなどから目標を達成できなかったものの、受入延べ人数自体は前年度から200人増加した。	県内の精神科医療水準の向上のため、実習生等を積極的に受け入れていく。
—	・労働生産性向上タスクフォースによる改善の取組	—	引き続き、タスクフォースでの取組を行っていく。

令和5年度 一志病院院長マネジメントシート

病院名	一志病院					
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。					
経営方針	・あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 ・県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院を目指します。		・プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 ・職員の意欲と能力の向上に努めます。			
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R4 実績値	R5 目標値
顧客の 視点		プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加 入院患者の増加	1日平均外来患者数 1日平均入院患者数 【病床稼働率】	65.7人/日 33.0人/日 【71.8%】	68.0人/日 36.0人/日 【78.3%】
財務の 視点		経営の健全化	収支の改善 収益の確保	経常収支比率 医業収支比率 診療報酬検討会開催回数	113.7% 70.8% 12回	107.8% 66.7% 12回
内部プロ セスの 視点		地域に最適な医療体制の構築 総合診療医を中心とした地域医療 プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)	医師の充足 看護師の充足 関係機関・地域住民との連携強化 在宅療養の充実 救急医療体制の確立 予防医療の実践 研修医・医学生の受入体制の充実 看護師等育成の支援 プライマリ・ケアセンターへの支援	医師充足率 看護師充足率 多職種連携による取組件数 訪問診療、訪問看護等延べ患者数 救急患者受入件数 (救急車搬送患者を含む) 住民健診、人間ドック、がん検診受検者数 研修医・医学生受入延べ人数 看護実習生等受入延べ人数 プライマリ・ケア研修会開催件数	96.8% 100.0% 13件 4,820人 655件 984人 408人 380人 3件	100.0% 100.0% 15件 4,800人 800件 1,200人 500人 350人 3件
学習と成 長の視 点		職員の意欲と能力の向上 (業務改善に向けた取組) 風通しの良い職場づくり	医療従事者の能力向上 危機管理対策の向上 業務改善の推進 風通しの良い職場づくり	学会、研修、カンファレンス等参加率 危機管理研修等参加率 「夢プロジェクト」開催回数 職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	100.0% 100.0% 12回 76.0%	100.0% 100.0% 12回 -

- ・プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。
- ・継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。

R5 実績値	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
55.0人/日	・感染防止対策を講じながら、総合診療医を中心とした外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。	・整形外来を開設するなど外来診療体制の充実に努めたものの、目標を達成することができなかった。	・地域住民の幅広いニーズに対応し、プライマリ・ケアの実践により患者数の確保に取り組んでいく必要がある。
33.4人/日 【72.7%】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。	・地域包括ケア病床への病床転換や、地域の医療機関、保健・福祉機関等と連携し、入院患者の受入れに努めたものの、目標を達成することができなかった。	・地域の関係機関との連携により、引き続き、地域の入院ニーズに対応していく必要がある。
3件	・へき地医療拠点病院として、県へき地医療支援機構の要請に基づくへき地診療所への代診医の派遣や、津市の要請による診療所への医師派遣を通じた医療過疎地域の診療支援を行う。	・津市の診療所への医師派遣等を行ったものの、県へき地医療支援機構からの支援要請に対しては、常勤医師の産育休等で実員が不足したため応えることができず、目標を達成することができなかった。	・県内の医療過疎地域を支援できるよう、引き続き、代診医派遣等に取り組んでいく必要がある。
97.7%	・患者様アンケートを通じて患者のニーズを把握し、サービス改善に取り組み。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。	・患者の気持ちに寄り添った対応を心がけて取り組むとともに、電子カルテシステムの運用の慣熟による待ち時間の短縮等により、目標を達成することができた。	・患者満足度の向上を図るため、引き続き、患者の皆さんの意見等を病院運営に生かしていく必要がある。
108.4%	・入院、外来患者数増や単価増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。	・地域包括ケア病床の運用等により、入院患者数や入院単価が増加し、経常収支は11年連続の黒字を確保することができた。	・引き続き、患者数の確保や費用の縮減等に努めることで、黒字を維持していく必要がある。
65.1%	・請求漏れ対策や減点対策等に取り組み、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。		
12回	・収益増加、経費節減策の提案・実行に取り組む。		
100.0%	・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど勤務医にとって魅力のある病院づくりに取り組む。	・医師にとって魅力ある病院づくりに努めるとともに、三重大学などへの働きかけを行い、目標を達成することができた。	・引き続き、医師にとって魅力ある病院づくりや大学などへの働きかけに取り組んでいく必要がある。
100.0%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力のある病院づくりに取り組む。	・当院の取組に係る情報発信や看護師が働きやすい職場環境づくり等に取り組んだことで、目標を達成することができた。	・引き続き、看護師の確保・定着促進に取り組んでいく必要がある。
18件	・保健・医療・福祉連携会議の開催等により、関係機関と連携した取組を図る。 ・「顔の見える会」の活動等の取組を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。	・地域の保健・医療・福祉の多職種による課題検討会の開催などを通じて、地域住民や関係者の意識向上や一体感の醸成を図り、目標を達成することができた。	・引き続き、感染防止対策を講じながら、地域住民や関係者の意識向上や一体感の醸成を図っていく必要がある。
4,147人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問医療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。	・産育休により医師の実員が不足したこと等により、目標を達成することができなかった。	・引き続き、保健・福祉機関や施設、地域との連携などにより、在宅療養支援のニーズに応えていく必要がある。
680件	・宿日直体制を維持し、救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。	・救急隊と医師をつなぐ「救急ホットライン」や、診療所・福祉施設と外来師長をつなぐ「外来ホットライン」を活用し取り組んだものの、時間内の救急対応が減少し、目標を達成することができなかった。	・引き続き、消防機関や診療所等との密接な連携を図るとともに、24時間365日の救急患者受入体制を維持していく必要がある。
964人	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等の予防医療に係る取組を通じ、健康管理に対する意識啓発を図る。	・引き続き、住民健診、人間ドック、がん検診を通じた予防医療に取り組むとともに、新たに特定健診に対応するなどしたものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、予防医療の啓発に取り組むとともに、住民健診等を実施する体制を維持していく必要がある。
427人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。	・研修医や医学生を積極的に受け入れたものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、研修医や医学生を積極的に受け入れていく必要がある。
336人	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。	・看護の実習生を積極的に受け入れたものの、目標を達成することができなかった。	・引き続き、実習生を積極的に受け入れ、実践的な研修を行うとともに、指導者の育成に取り組んでいく必要がある。
3件	・三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。	・研修会やプライマリ・ケア エキスパートナースの認証などについて、積極的に支援を行った。	・三重県プライマリ・ケアセンターの機能が十分に発揮されるよう、引き続き、積極的に支援を行っていく必要がある。
13件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。	・発熱外来、新型コロナワクチンへの対応、産育休による実員不足等により、研究に取り組む時間を十分に確保できず、目標を達成することができなかった。	・引き続き、研究に対する意欲の醸成に努めるとともに、研究に取り組むしやすい職場環境を維持していく必要がある。
100.0%	・学会、研修等に参加しやすい職場環境を整える。 ・多職種が参加するカンファレンス等を開催する。	・全職員が学会や研修会等に参加することができた。	・引き続き、学会や研修会等に参加しやすい職場環境づくりに取り組んでいく必要がある。
100.0%	・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。	・患者や家族の視点に立った医療を安全・安心に提供できるよう、危機管理に対する職員の意識や対応能力の向上に努めた。	・引き続き、感染防止対策など危機管理に対する職員の意識や対応能力の向上を図っていく必要がある。
12回	・一志病院のビジョン達成のため「夢プロジェクト」の活動を通じて、職員の意欲と能力を向上させ、様々な業務改善を積極的に推進する。	・夢プロジェクト内に設けられた各戦略グループの取組状況の報告、確認等を行いつつ、業務改善を積極的に行った。	・引き続き、職員の意欲や能力向上を図り、様々な業務改善を積極的に推進していく必要がある。
-	・ライフ・ワーク・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。	-	・すべての職員が様々な取組の充実や改善に貢献することを実感できるよう、引き続き、努めていく必要がある。

令和5年度 病院事業庁長マネジメントシート

病院名	三重県病院事業庁					
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。					
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。					
区分	経営シナリオ	目 標	主 な 成 果 (重要成功要因)	業 績 評 価 指 標	R4 実績	R5 目標値
顧客の 視点		安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上	患者満足度	90.9%	95.0%
			県立病院の役割・機能の提供	訪問看護等延べ患者数	9,137人	9,800人
			救急医療の充実	救急患者受入件数	772件	980件
			地域の関係機関等との連携強化	関係機関等との連携件数	22件	24件
			医療事故の防止	医療過誤数	0件	0件
			志摩地域における医療提供体制の整備	志摩病院における入院・外来・救急患者数	166.2人/日 258.4人/日 300.9人/月	187.0人/日 265.0人/日 402.6人/月
財務の 視点		県立病院の健全経営	経常収支均衡	経常収支比率 医業収支比率 1日平均入院患者数 1日平均外来患者数	113.5% 57.1% 220.1人/日 252.8人/日	101.3% 64.1% 266.0人/日 268.0人/日
内部プロセスの 視点		医療スタッフの確保	医師の確保・定着	医師充足率	83.2%	100.0%
			看護師の確保	看護師充足率	100.0%	100.0%
		業務改善の推進	研修医・看護実習生等の受入れ	研修医・看護実習生等受入延べ人数	2,756人	3,050人
			改善活動の定着	業務改善取組テーマ数	3件	3件
			災害医療体制の構築	災害時の医療支援訓練実施回数	6回	4回
		危機管理の推進とコンプライアンスの確立	リスクマネジメントの確立実践	医療安全委員会の開催回数	25回	24回
			コンプライアンスの確立実践	研修会等の実施	9回	9回
指定管理者制度導入後の進捗管理	指定管理者による診療体制の充実	管理運営協議会の開催	2回	2回		
学習と成長の 視点		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	73.6%	—
			コミュニケーションの向上	病院現場との定例的な会議の開催	5回/月	5回/月
		一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	専門能力の向上(スキルアップ)	職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的な回答割合	72.2%	—
			職員の危機管理意識の向上	危機管理研修等参加率	100.0%	100.0%



R5 実績	アクションプラン	実績評価	次年度への課題
90.9%	・患者様アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院まつり等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施	・こころの医療センターではタスクフォースでの取組を継続して実施したが、目標を達成できなかった。 ・一志病院では目標を達成できた。	・引き続き、患者様アンケートの実施とその結果分析により患者ニーズを的確に把握し、満足度向上に向けた対策を講じていく必要がある。
7,950人	・こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実	・新型コロナウイルスからの回復が十分でなかったことや医師の実員不足等の影響により、両病院共に目標を達成できなかった。	・引き続き、限られた医療資源を効率的に活用し、在宅医療のニーズに応えていく必要がある。
876件	・救急医療の提供体制の確保	・こころの医療センターでは目標を達成したが、一志病院では救急車搬送患者が減少したことから目標を達成できなかった。	・引き続き、関係機関と連携を図りながら救急患者の受入体制を維持し、県立病院としての役割を果たしていく必要がある。
27件	・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組	・地域の医療機関や介護、予防等の関係機関と積極的に連携し、目標を達成できた。	・引き続き、地域の医療機関や関係機関との連携強化に取り組む必要がある。
1件	・事故防止のための取組	・医療安全管理委員会等で様々な取組を行っていたが、医療事故(転倒による骨折事案)が発生し、目標を達成できなかった。	・医療安全管理委員会等で事例収集・再発防止策の検討を行うとともに、医療事故に係る研修を通して、これまで以上に職員の意識向上に取り組んでいく必要がある。
169.2人/日 247.6人/日 358.2人/月	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の維持・充実を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供	・救急患者を積極的に受け入れたことにより前年度と比べて患者数が増加したものの、新型コロナウイルスからの回復が十分でなかった影響等により目標を達成できなかった。	・引き続き、志摩地域の中核病院としての役割・機能を担っていくよう、指定管理者と密接に連携し、地域の医療ニーズをふまえながら診療機能の維持・充実に取り組んでいく必要がある。
99.8% 57.9% 237.1人/日 235.8人/日	・2病院の医療収支比率の改善 ・入院患者数の確保に向けた取組 ・外来患者数の確保に向けた取組	・経常収支比率について、新型コロナウイルスに係る国からの交付金が減少した影響等により前年度と比べて悪化した。 ・患者数について、新型コロナウイルスからの回復が十分でなかった影響等により目標を達成できなかった。	・病床管理の適正化等により収益の増加を図るとともに、材料費や経費など費用の縮減に努めていく必要がある。 ・地域のニーズに対応しながら、病連携の強化やプライマリ・ケアの実践等により、患者数の確保に取り組んでいく必要がある。
87.4%	・医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)	・大学医局等への医師派遣要請や医学生・研修医等の実習受入れにあわせて、病院の魅力発信等を行ったが、目標を達成できなかった。	・引き続き、医師にとって魅力のある病院づくりや研修プログラムの運用、積極的な情報発信などにより、医師確保につなげていく必要がある。 ・大学医局等に継続して医師派遣要請を行っていく必要がある。
100.0%	・看護師の確保・定着のための研修資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等	・看護師が働きやすい職場環境づくりや病院の魅力発信等を行うことで目標を達成できた。	・取組を継続し、看護師の確保につなげていく必要がある。
2,931人	・研修医等の受入体制の確保 ・研修や実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成	・研修医や医学生、看護学生等の実習を積極的に受け入れたが、実習期間が短縮された影響等により目標を達成できなかった。	・引き続き、研修生や実習生を積極的に受け入れていく必要がある。
3件	・患者等のニーズに応じた改善、Web会議の活用、紙資料・プラスチックごみ削減の3つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進	・患者等のニーズに対応した病棟機能の再編、Web会議の推進による業務効率化、積極的な声掛けによる紙資料・プラスチックごみ削減に取り組んだ。	・患者等のニーズに応じた改善策を講じ、満足度の高い医療サービスを提供していく必要がある。
5回	・自然災害等を想定した図上訓練の実施等(各病院2回) ・災害支援体制の確立、院内備蓄の整備・充実	・災害訓練や感染防止に係る研修を実施し、発災時の対応能力の向上を図った。 ・能登半島地震の発災に伴い、DPAT、DMAT及び災害支援ナースの派遣を行った。	・各種研修会や訓練等を計画的に実施し、継続的に災害等リスク発生時における対応力の向上やコンプライアンスの徹底を図っていく必要がある。 ・能登半島地震から得られた気づきをふまえながら、BCPIに基づく訓練の実施やマニュアルの継続的な見直しを行うなど、災害への備えを進めていく必要がある。
25回	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実	・各病院において医療安全に関する委員会を定期的に開催し、安全な医療を提供する体制づくりに取り組んだ。	・各所属において過去の発生事例を題材として発生防止と適切な事後対応に係る研修会を実施するなど、コンプライアンスの徹底に取り組んだ。
9回	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等(各所属3回)	・志摩病院管理運営協議会や毎月の業務報告書の聴き取り等を通じて、運営状況を把握し、課題等について協議・調整を行った。	・志摩地域の中核病院として、また、県立病院としての役割・機能を担っていくため、引き続き、指定管理者と密接に連携し診療機能を維持・充実させる必要がある。
2回	・指定管理者との連携・調整に係る体制づくり		
—	・日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 ・ライフ・ワーク・マネジメントシート等を活用した対話の実施		・職員満足度の向上を図るため、引き続き、明るく風通しの良い職場づくりやライフ・ワーク・マネジメントの推進に努めていく必要がある。
5回/月	・現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり	・病院現場を重視する視点、職員間のコミュニケーションを大切にして、共に実践する組織づくりに取り組んだ。	・情報を共有し課題に共に取り組んでいけるよう、有意義なコミュニケーション機会を創出していく必要がある。
—	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)		・引き続き、職員の専門性や意識の向上に取り組んでいく必要がある。
99.8%	・医療安全研修会等の開催	・医療安全研修会等の開催を通じて、職員の危機管理意識の向上に取り組んだ。	・引き続き、事故防止に努めるとともに、職員の危機管理意識の向上を図っていく必要がある。



【参考】 令和6年度 こころの医療センター院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター		
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療のサー		
経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しな</li> <li>政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い</li> </ul>		
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		<p>◎重点取組事項</p> <p>早期社会復帰の推進</p> <p>社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供</p>	<p>満足度の高い医療の提供</p> <p>新患者の寛解率の向上</p> <p>地域生活支援体制の充実</p> <p>精神科救急・急性期医療の推進</p> <p>地域医療機関との連携</p> <p>精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組</p>
財務の視点		<p>◎重点取組事項</p> <p>医業収支改善</p>	<p>臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立</p> <p>経常収支比率、医業収支比率の改善</p>
内部プロセスの視点		<p>◎重点取組事項</p> <p>医療体制の構築</p> <p>精神科倫理に則った病院運営</p>	<p>経営改善の方向性決定</p> <p>常時急性期患者受入体制の確立</p> <p>医師の充足</p> <p>看護師の充足</p> <p>災害時医療体制の確立に向けた取組</p> <p>医療安全・感染管理の徹底</p>
学習と成長の視点		<p>◎重点取組事項</p> <p>専門性の向上</p> <p>三重県の精神科をリードする取組</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>	<p>コンプライアンスの徹底</p> <p>専門能力を身につけた職員の増加</p> <p>精神科医療スタッフの育成</p> <p>職員満足度の向上</p>

ビスを提供します。

がら、健全な病院運営を進めます。  
、県の精神科医療をリードします。

業績評価指標	R5 実績値	R6 目標値	アクションプラン
患者満足度	86.0%	95.0%	・患者様アンケートを通じた患者ニーズの把握、サービス改善の取組 ・ホームページの改善(見やすさ・分かりやすさの向上、重要情報の適切な配置等)
新患者の寛解率	68.2%	60.0%	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進
デイケア・ショートケア延べ患者数	9,483人	12,500人	・プログラムの充実により集客を図る取組
訪問看護延べ患者数	3,803人	5,000人	・利用者の地域生活を支援していくための質の確保
在院3か月以内退院率	79.4%	77.6%	・地域の関係機関との連携及び日中活動支援等の充実
家族等にむけた研修会の開催件数	24件	24件	・家族にむけた研修会の着実な実施
精神科救急患者・緊急対応患者受入件数	488件	460件	・精神科救急患者、緊急対応患者受入体制の確保
障害福祉サービス事業所等との連携取組件数	9件	9件	・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催
医療機関訪問件数	288件	200件	・関係性の深い医療機関との連携強化 ・当院の積極的な売り込み
YMSC新規相談件数	223件	200件	・早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実、ケースマネジメント体制の確立
アルコール依存症入院患者数	21.7人/日	30.0人/日	・アルコール相談の実施、他医療機関との連携
認知症入院患者数	32.5人/日	40.0人/日	・認知症相談の実施、他医療機関、施設との連携
こころしっとこセミナー開催件数	35件	35件	・精神科医療取組の広報・啓発、講師の育成等
臨床・経営指標の追加・充実	充実	充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析
経常収支比率	97.1%	94.1%	・精神科専門治療の充実
医業収支比率	57.5%	63.5%	・精神科特定入院料の算定
1日平均入院患者数	203.7人/日	230.0人/日	・収支改善に向けた病院機能の検討
1日平均外来患者数	180.8人/日	200.0人/日	・病棟機能の明確化と病棟間の連携 ・他医療機関、施設との連携
病棟機能の再構築	検討・実施	検討・実施	・東1病棟改修工事の完成をふまえた病棟機能の院内での検討
措置鑑定対応件数	100件	50件	・県健康推進課・保健所等との連携、院内救急体制整備
医師充足率	79.2%	100.0%	・研修や資格取得へのバックアップ体制を強化するなど医師に魅力ある病院づくりの取組
看護師充足率	98.9%	100.0%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力ある病院づくりの取組
災害訓練実施回数	1回	1回	・震災、感染症及びサイバー攻撃に係るBCPマニュアルの実効性を高める取組
危機管理研修等参加率	99.7%	100.0%	・医療安全研修の複数回実施、未受講者への受講勧奨
倫理委員会(研修)開催数	2回	2回	・職員の精神科医療における倫理意識向上のための研修の実施
人材育成研修回数	5回	6回	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施
研修医・看護実習生等受入延べ人数	2,168人	1,900人	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合	—	73.0%	・タスクフォースによる改善の取組

【参考】 令和6年度 一志病院院長マネジメントシート

病院名	一志病院		
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。		
経営方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。</li> <li>県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プライマリ・ケアを担う人材を育成します。</li> <li>職員の意欲と能力の向上に努めます。</li> </ul>	
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の 視点	<p>全国的医療過疎を解決する病院のモデル</p> <p>県内への医師等の定着</p> <p>プライマリ・ケアの実践</p> <p>県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院</p>	<p>プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)</p> <p>県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)</p>	<p>かかりつけ患者の増加</p> <p>入院患者の増加</p> <p>県内医療過疎地域への貢献</p> <p>患者及び家族の満足度向上</p>
		<p>経営の健全化</p>	<p>経営の健全化</p>
内部プ ロセス の視点	<p>地域に最適な医療体制づくり</p> <p>地域医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>包括的なケア</li> <li>多職種連携</li> <li>住民参画型</li> </ul> <p>総合診療医</p> <p>教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療を担う人材の教育</li> </ul> <p>研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究</li> </ul> <p>地域に最適な医療体制の構築</p> <p>総合診療医を中心とした地域医療</p>	<p>地域に最適な医療体制の構築</p> <p>総合診療医を中心とした地域医療</p> <p>プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)</p> <p>プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出 (実践的かつ先進的な研究の実施)</p>	<p>医師の充足</p> <p>看護師の充足</p> <p>関係機関・地域住民との連携強化</p> <p>在宅療養の充実</p> <p>救急医療体制の確立</p> <p>予防医療の実践</p> <p>研修医・医学生の受入体制の充実</p> <p>看護師等育成の支援</p> <p>プライマリ・ケアセンターへの支援</p>
		<p>職員の意欲と能力の向上</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>	<p>職員の意欲と能力の向上</p> <p>風通しの良い職場づくり</p>
学習と 成長の 視点			

- ・プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。
- ・継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。

業績評価指標	R5 実績値	R6 目標値	アクションプラン
1日平均外来患者数	55.0人/日	61.0人/日	・総合診療を中心とし、地域ニーズに合わせた外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。
1日平均入院患者数 【病床稼働率】	33.4人/日 【72.7%】	36.0人/日 【78.3%】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。
医療過疎地域等への 支援件数	3件	5件	・へき地医療拠点病院として、県へき地医療支援機構の要請に基づくへき地診療所への代診医の派遣や、津市の要請による診療所への医師派遣を通じた医療過疎地域の診療支援を行う。
患者満足度	97.7%	96.6%	・患者様アンケートを通じて患者のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。
経常収支比率	108.4%	100.3%	・入院、外来患者数増や単価増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。
医業収支比率	65.1%	63.3%	・診療報酬改定への対応や、請求漏れ、減点対策等に取り組み、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。
医師充足率	100.0%	100.0%	・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど医師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。
看護師充足率	100.0%	100.0%	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。
多職種連携による取 組件数	18件	15件	・保健・医療・福祉連携会議の開催等により、関係機関と連携した取組を図る。 ・「顔の見える会」の活動等の取組を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。
訪問診療、訪問看護 等延べ患者数	4,147人	4,700人	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。
救急患者受入件数 (救急車搬送患者を 含む)	680件	750件	・宿日直体制を維持し、救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。
住民健診、人間ドク ク、がん検診、特定保 健指導受診者数	973人	1,200人	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等の予防医療に係る取組を通じ、健康管理に対する意識啓発を図る。
研修医・医学生受入 延べ人数	427人	500人	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。
看護実習生等受入延 べ人数	336人	350人	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。
プライマリ・ケア研修 会開催件数	3件	3件	・三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。
学会、論文等発表件 数	13件	20件	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。
危機管理研修等参加 率	100.0%	100.0%	・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。
職員アンケートの「満 足度」の設問での肯 定的な回答割合	—	75.0%	・ライフ・ワーク・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。

【参考】令和6年度 病院事業庁長マネジメントシート

病院名	三重県病院事業庁			
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。			
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。			
区分	経営シナリオ	目 標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標
顧客の 視点	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>安定的、継続的な医療の提供</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">地域や県民 ニーズに応じ た医療の提供</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">良質で安全・ 安心な医療の 提供</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">患者満足度 の高い医療 の提供</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>●精神科専門医療の提供</li> <li>●家庭医療の実践</li> <li>●地域に必要な医療体制の整備</li> <li>●地域の医療機関等との連携・協力</li> </ul> </div>	安定的・継続的な 医療の提供	患者満足度の向上	患者満足度
			県立病院の役割・機 能の提供  救急医療の充実  地域の関係機関等と の連携強化  医療事故の防止  志摩地域における医 療提供体制の整備	訪問看護等延べ患 者数  救急患者・緊急対応 患者受入件数  関係機関等との連携 件数  医療過誤数  志摩病院における入 院・外来・救急患者 数
財務の 視点	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>県立病院の健全経営</p> </div>	県立病院の健全 経営	経常収支均衡	経常収支比率 医業収支比率 1日平均入院患者数 1日平均外来患者数
内部プ ロセス の視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">医師・看護 師など医療 スタッフの確 保・定着</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">病院機能の 充実、業務 改善、革新</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">危機管理 の推進とコ ンプライア ンスの確立</div> </div>	医療スタッフの確 保	人材の確保・定着  研修医・看護実習生 等の受入れ	医師充足率  看護師充足率  研修医・看護実習生 等受入延べ人数
		業務改善の推進	改善活動の定着	業務改善取組テーマ 数
		危機管理の推進 とコンプライア ンスの確立	災害医療体制の構 築 リスクマネジメントの 確立実践 コンプライアンスの確 立実践	災害時の医療支援 訓練実施回数 医療安全委員会の 開催回数 研修会等の実施
		指定管理者制度 導入後の進捗管 理	指定管理者による診 療体制の充実	管理運営協議会の 開催
学習と 成長の 視点	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">風通しの良 い職場づくり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">チーム力を 最大にするコ ミュニケー ションの向上</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">一人ひとりの 職員の専門 能力の向上</div> </div>	風通しの良い職 場づくり  一人ひとりの職 員の力を伸ばす 専門能力の向上	職員満足度の向上  コミュニケーションの 向上  専門能力の向上(ス キルアップ)  職員の危機管理意 識の向上	職員アンケートの「満 足度」の設問での肯 定的な回答割合  病院現場との定例的 な会議の開催  職員アンケート「プロ として成長している か」の設問での肯 定的な回答割合  危機管理研修等参 加率

※令和6年度のマネジメントシートでは、「患者満足度」、「災害時の医療支援訓練実施回数」及び「危機管理研修等参

R5 実績	R6 目標値	アクションプラン
92.7%	95.0%	・患者様アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院まつり等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施
7,950人	9,700人	・こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実 ※こころ:5,000人、一志:4,700人
1,168件	1,210件	・救急医療の提供体制の確保 ※こころ:460件、一志:750件
27件	24件	・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組 ※こころ:9件、一志:15件
1件	0件	・医療安全管理委員会等での事例収集・再発防止策の検討 ・医療事故防止をテーマとした医療安全研修への職員参加の徹底
169.2人/日 247.6人/日 358.2人/月	180.0人/日 262.0人/日 362.0人/月	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の維持・充実を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供
99.8% 57.9% 237.1人/日 235.8人/日	95.7% 62.1% 266.0人/日 261.0人/日	・2病院の医業収支比率の改善 ・入院患者数の確保に向けた取組 ・外来患者数の確保に向けた取組
87.4%	100.0%	・医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)
100.0%	100.0%	・看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等
2,931人	2,750人	・研修医等の受入体制の確保 ・研修や実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成 ※こころ:1,900人、一志:850人
3件	3件	・患者等のニーズに応じた改善、ホームページの充実や積極的な情報発信、紙資料・プラスチックごみ削減の3つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進
7回	6回	・自然災害等を想定した図上訓練の実施等(各病院2回) ・災害支援体制の確立、院内備蓄の整備・充実
25回	24回	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実
9回	9回	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等(各所属3回)
2回	2回	・指定管理者との連携・調整に係る体制づくり
—	74.0%	・日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 ・ライフ・ワーク・マネジメントシート等を活用した対話の実施
5回/月	5回/月	・現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり
—	73.0%	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)
99.9%	100.0%	・医療安全研修会等の開催及び職員参加の徹底

加率]について、志摩病院の値を含めています。